

平成 27 年度第 3 回
鹿島地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成 27 年 10 月 29 日
佐賀県教育委員会

目次

	頁	
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)第2回新高校設置準備委員会報告まとめ・・・・・・・・・・	1
資料 2	めざす学校像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料 3	新高校の学科構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
資料 4	校舎制について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
資料 5	新高校設置準備委員会設置要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
資料 6	鹿島地区新高校設置準備委員会委員構成・・・・・・・・・・・・・・・・	30
資料 7	鹿島地区新高校設置に向けた検討体制・・・・・・・・・・・・・・・・	31

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第2回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成27年 7月27日(月) 10時～11時45分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 12人 県教育委員会関係委員 8人
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 7月27日(月) 15時～16時40分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成27年 7月28日(火) 15時～16時40分 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 8人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成27年 7月31日(金) 15時～16時40分 伊万里商業高校 会議室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人
唐津地区 ・ 巖木高校	平成27年 8月17日(月) 9時30分～11時 巖木高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 9人 太良高校 山口校長

2 主な意見等

地区	主な意見等
杵島地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす学校像」について、今ある教育目標などを足し合わせるだけでなく、新しい学校にプラス ができないか。 ・ 新高校がこの地区で果たす役割を確認して、担わせるものを明らかにするとわかりやすい。 ・ 2校を再編する中で、特色や魅力につながるものを精選し、新しい学校に受け継がせることが重要である。 ・ 多様化する社会に対応できるよう、いろいろなコースを作って人材を育成してほしい。
鹿島地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい学校に子どもたちが誇りを持つことは大切なので、「郷土を愛し、母校に誇りを持つ」というようなフレーズを入れてほしい。 ・ 選挙権年齢が18歳に引き下げられるので、社会の一員としての自覚に関する文言は必要ではないか。 ・ 田澤先生の理念である「人格の完成をめざし人間教育の振興」という文言は残すべきである。

地区	主な意見等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新高校の学科構成については、現在の産業構造や地域産業も考慮する必要がある。そういうデータが欲しい。
嬉野地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす学校像」の内容として、1つは知・徳・体のバランス、2つ目は佐賀の良さを学び、地域と連携する学校であること。これらに加えて、地元企業のグローバル化等に対応し、国際社会に貢献できるような人材育成という視点も大事である。 ・ 「地域」と「グローバル」という2つの視点を入れてほしい。 ・ 「めざす学校像」の示し方としては、箇条書きで示した方がわかりやすくよい。 ・ 新高校の学科は、専門学科として残すべきである。
伊万里地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす学校像」の3つの案は、どれも基本的に「これからやっぴいこう」という姿勢が示されている。 ・ 「めざす学校像」は、学校の存在意義、この地域にこの学校が存在する意義というような、大きなものであり、これを明らかにした後で教育目標などを作っていくことになる。 ・ 「めざす学校像」案の、「至誠」は伊万里農林高校に、「礼節」は伊万里商業高校に由来する言葉である。これに両校共通の「勤勞」という言葉がある。固い言葉ではあるが、歴史を感じさせる言葉なので、これらの言葉を生かしたい。 ・ 学科について話をする際、地域ニーズを把握するため、地域の産業界の方をこの委員会に呼んで意見を聞いてはどうか。
唐津地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太良高校では、担任や副担任の他に、学習支援員や地域連携の支援員、学校設定科目に関わっていただいている特別非常勤講師など、外部の方の関わりが多い。学校だけでは難しい面があり、地域との関係は大事だと思う。 ・ 「めざす学校像」としては、ポイントを箇条書きにした案の方が、具体的で良い。 ・ 「めざす学校像」に、現在の校訓や三省も生かして欲しい。 ・ 不登校経験や発達障害のある生徒など、可能性を伸ばせなかった子どもたちを地域と一緒に育てる、そういうふうに関一人一人の生徒を丁寧に育て、社会に出していくという姿勢が伝わる「学校像」であれば、と思う。

めざす学校像

めざす学校像（案）

心身ともに逞しく生きる力を持ち
豊かな人間性と知性とを兼ね備えた
広く社会に貢献する人材を育てる学校

機会があるごとに繰り返し述べることになるので、できるだけ簡潔なものとする。

鹿島高校や鹿島実業高校の地域での役割（地域の進学・就職を支える学校。社会貢献を行う人材を育てる学校）の部分に焦点化した内容とする。

箇条書きだと、後に設定する教育目標と被るので、文章形式とする。

理念としての「めざす学校像」から、より具体的な教育目標や指導方針を導き出すことができるように、より大きな表現（一般化した表現）で記述する。

第2回設置準備委員会が出された、盛り込みたいフレーズやキーワード等は、教育目標や指導方針を策定する際の参考とする。

参考資料

第2回設置準備委員会で事務局が提示しためざす学校像（案）

【A案】

人格の完成を目指して人間教育の振興に努めるとともに、心身ともに逞しく社会を生き抜く力を持ち、豊かな人間性と専門性を兼ね備えた、地域・国家・国際社会に貢献できる人材を育成する学校。

【B案】

郷土を愛し、地域社会の発展に寄与する人材を育成する学校
未来を切り拓く心豊かでたくましい人材を育成する学校

【C案】

長い伝統に根差した地域の信頼と期待に応え、地域を支えるリーダーとなる人材を育成する学校。
豊かな人間性と知性を備え、正義に生きる高潔な人格を有し、国家社会に貢献する人材を育てる学校。
自らの意志で課題に挑戦し、学ぶべき師や友との協働によって、たくましく未来を生きる力を育む学校。

第2回設置準備委員会における意見

- (1) 提示した案について
 - ・ A案が最も良いと思う。
 - ・ シンプルなB案をベースとした方が良い。
- (2) 盛り込みたいフレーズやキーワードについて
 - ・ (A案の)「専門性」という言葉を「知性」に置き換えた方が良い。
 - ・ 「母校に誇りを持ち」「郷土を愛し」といったフレーズを入れてほしい。
 - ・ 社会の一員としての自覚に関する文言を入れてほしい。
 - ・ 田澤先生の理念そのものである(A案の)「人格の完成を目指し人間教育の振興」という文言は残してほしい。
 - ・ 「世界」や「未来」へ「羽ばたく」というような内容を入れてはどうか。
- (3) その他の意見
 - ・ 県外からもこの学校を目指して進学したくなるような文言。
 - ・ 進学校のイメージは打ち出すべき。
 - ・ 分かり易く、シンプルなものが良い。

新高校の学科構成

1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方

「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。

<平成27年度現在の学科の状況>

学校	大学科区分	小学科	学級数(1学年あたり)	定員(1学年あたり)	コース分け等
鹿島高校	普通科		5学級	200人	2年次より、文系・理系コース
鹿島実業高校	商業科	商業科	1学級	40人	2年次より「商品開発コース」 「会計コース」
		情報処理科	1学級	40人	2年次より「ビジネス情報コース」 「情報管理コース」
	家庭科	食品調理科	1学級	40人	コース設定なし

2 平成30年度～平成32年度の学級数（募集定員）の見通し

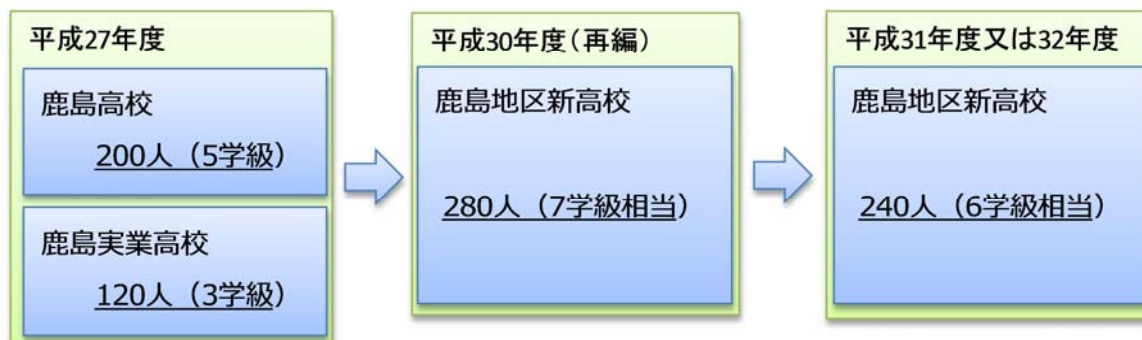
鹿島・藤津地区の再編後の学級数（募集定員数）については、以下の見込である。

鹿島地区 平成30年度 1学年280人（7学級規模）

「鹿島・藤津地区については、生徒数の減により、平成31年度及び平成32年度に、さらに募集定員を各40人（1学級相当）減じる必要があると見込んでいる。」

（新実施計画 第1次 より）

<鹿島地区新高校 募集定員の流れ（見込）>



3 再編後の学科及び定員の組合せパターン

(H30 年度募集定員 7 学級規模 平成 31 年度又は 32 年度募集定員 6 学級規模)

専門学科を先に減じる場合

平成30年度					平成31年度(又は32年度)				
パターン	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数	
パターン1	普通科		200	5	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	20	0.5		商業科	商業	20	0.5
		情報処理	20	0.5		商業科	情報処理	20	0.5
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン2	普通科		200	5	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン3	普通科		200	5	⇒	普通科		160	4
	商業科	情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン4	普通科		200	5	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1

普通科を先に減じる場合

平成30年度					平成31年度(又は32年度)				
パターン	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数	
パターン1'	普通科		160	4	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	20	0.5
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	20	0.5
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
パターン2'	普通科		160	4	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
家庭科	食品調理	40	1	家庭科	食品調理	40	1		
パターン3'	普通科		160	4	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	情報処理	40	1
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
家庭科	食品調理	40	1	家庭科	食品調理	40	1		
パターン4'	普通科		160	4	⇒	普通科		160	4
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1			情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1

専門学科を減じない場合

平成30年度					平成31年度(又は32年度)				
パターン	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数	
パターン5	普通科		160	4	⇒	普通科		120	3
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1		家庭科	食品調理	40	1

普通科を減じない場合

平成30年度					平成31年度(又は32年度)				
パターン	学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数		学科 (大学科)	小学科 コース	定員	相当 学級数
パターン6	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	商業	40	1		家庭科	食品調理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1					
パターン6'	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	情報処理	40	1		家庭科	食品調理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1					
パターン7	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
	家庭科	食品調理	40	1					
パターン7'	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	商業	40	1		商業科	商業	40	1
		情報処理	40	1					
パターン8	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	情報処理	40	1		商業科	情報処理	40	1
	家庭科	食品調理	40	1					
パターン8'	普通科		200	5	⇒	普通科		200	5
	商業科	商業	40	1		商業科	情報処理	40	1
		情報処理	40	1					

<参考資料1> 学科の特色（現在の取組等）

普通科（2年次より文系・理系）

- ア 1年次から卒業後を見据えたキャリア教育を実践し、2年次からは目指すべき進路に応じて文系と理系に分け、きめ細かな学習指導体制で進路実現を支援します。
- イ 授業とは別に放課後の特課、土曜講座など学力向上と受験対策に特化した学習指導を行い、学習の習慣化と学力向上を支援します。
- ウ 3年次の数学及び英語においては習熟度別の少人数指導体制で授業を行い、それぞれの進路先に応じた学力を身に付けさせます。

【大学現役合格者数の推移】

（単位：人）

卒業年月		H23年3月	H24年3月	H25年3月	H26年3月	H27年3月
国 公 立 大 学	国立大学	64	68	77	67	79
	公立大学	14	15	29	29	26
	合計 (合格率)	78 (39.0%)	83 (41.5%)	106 (53.0%)	96 (48.0%)	105 (52.5%)
私立大学		158	198	235	284	215

合格率は募集定員ベース

H27年の主な合格先（現役生）

- 国公立： 京都大学、筑波大学2、大阪大学、九州大学4、広島大学5、佐賀大学28
長崎大学11、熊本大学8、長崎県立大学6
- 私立： 立命館大学8、西南学院大学10、福岡大学59
- その他： 中村学園大学短大部、嬉野医療センター附属看護学校、佐賀県立総合看護学院
久留米リハビリテーション学院、佐賀歯科衛生専門学校

商業科（2年次より「商品開発コース」「会計コース」）

ア 学科の目標

- ・ ビジネス社会で、生き抜いていくための基本知識と技能を身につけます（HPより）

イ 求める生徒像（HPより 商業科、情報処理科共通）

- ・ 簿記、会計などの商業ビジネスや、プログラミングや情報システムなどのコンピュータの活用に興味・関心があり、その知識と技術を深め、高度資格取得に意欲的に取り組む生徒。
- ・ 高い倫理観と責任感を持ち、商業人としての身だしなみ、あいさつ、言葉づかいやビジネスマナーをしっかりと身につけようとする生徒。

ウ 取得できる主な資格

- ・ 日商簿記検定2級
- ・ 全商簿記実務検定総合1級
- ・ 全商簿記検定2級
- ・ 全商簿記検定3級
- ・ 全商簿記検定4級
- ・ 全商簿記検定5級
- ・ 全商簿記検定6級
- ・ 全商簿記検定7級
- ・ 全商簿記検定8級
- ・ 全商簿記検定9級
- ・ 全商簿記検定10級
- ・ 全商簿記検定11級
- ・ 全商簿記検定12級
- ・ 全商簿記検定13級
- ・ 全商簿記検定14級
- ・ 全商簿記検定15級
- ・ 全商簿記検定16級
- ・ 全商簿記検定17級
- ・ 全商簿記検定18級
- ・ 全商簿記検定19級
- ・ 全商簿記検定20級
- ・ 全商簿記検定21級
- ・ 全商簿記検定22級
- ・ 全商簿記検定23級
- ・ 全商簿記検定24級
- ・ 全商簿記検定25級
- ・ 全商簿記検定26級
- ・ 全商簿記検定27級
- ・ 全商簿記検定28級
- ・ 全商簿記検定29級
- ・ 全商簿記検定30級
- ・ 全商簿記検定31級
- ・ 全商簿記検定32級
- ・ 全商簿記検定33級
- ・ 全商簿記検定34級
- ・ 全商簿記検定35級
- ・ 全商簿記検定36級
- ・ 全商簿記検定37級
- ・ 全商簿記検定38級
- ・ 全商簿記検定39級
- ・ 全商簿記検定40級
- ・ 全商簿記検定41級
- ・ 全商簿記検定42級
- ・ 全商簿記検定43級
- ・ 全商簿記検定44級
- ・ 全商簿記検定45級
- ・ 全商簿記検定46級
- ・ 全商簿記検定47級
- ・ 全商簿記検定48級
- ・ 全商簿記検定49級
- ・ 全商簿記検定50級
- ・ 全商簿記検定51級
- ・ 全商簿記検定52級
- ・ 全商簿記検定53級
- ・ 全商簿記検定54級
- ・ 全商簿記検定55級
- ・ 全商簿記検定56級
- ・ 全商簿記検定57級
- ・ 全商簿記検定58級
- ・ 全商簿記検定59級
- ・ 全商簿記検定60級
- ・ 全商簿記検定61級
- ・ 全商簿記検定62級
- ・ 全商簿記検定63級
- ・ 全商簿記検定64級
- ・ 全商簿記検定65級
- ・ 全商簿記検定66級
- ・ 全商簿記検定67級
- ・ 全商簿記検定68級
- ・ 全商簿記検定69級
- ・ 全商簿記検定70級
- ・ 全商簿記検定71級
- ・ 全商簿記検定72級
- ・ 全商簿記検定73級
- ・ 全商簿記検定74級
- ・ 全商簿記検定75級
- ・ 全商簿記検定76級
- ・ 全商簿記検定77級
- ・ 全商簿記検定78級
- ・ 全商簿記検定79級
- ・ 全商簿記検定80級
- ・ 全商簿記検定81級
- ・ 全商簿記検定82級
- ・ 全商簿記検定83級
- ・ 全商簿記検定84級
- ・ 全商簿記検定85級
- ・ 全商簿記検定86級
- ・ 全商簿記検定87級
- ・ 全商簿記検定88級
- ・ 全商簿記検定89級
- ・ 全商簿記検定90級
- ・ 全商簿記検定91級
- ・ 全商簿記検定92級
- ・ 全商簿記検定93級
- ・ 全商簿記検定94級
- ・ 全商簿記検定95級
- ・ 全商簿記検定96級
- ・ 全商簿記検定97級
- ・ 全商簿記検定98級
- ・ 全商簿記検定99級
- ・ 全商簿記検定100級

H27年の主な進学先・就職先

- 進学 西九州大学（子ども、健康福祉）、日本文理大学（経営経済）、長崎純心大学（人文）、西九州短大（幼児保育）、九州国際情報ビジネス専門学校、佐賀コンピュータ専門学校、佐賀歯科衛生専門学校、緑生館、武雄看護学校、産業技術学院
- 就職 キューピー株式会社、株式会社デンソー、トヨタ自動車株式会社、マツダ株式会社、株式会社にしけい、佐賀銀行、佐賀県有明海漁業協同組合、中島建設株式会社

情報処理科（2年次より「ビジネス情報コース」「情報管理コース」）

ア 学科の目標

- ICT 社会に対応できるよう、ビジネスの諸活動において情報を活用していくための知識や技能を身に付けます（HP より）

イ 求める生徒像（HP より 商業科、情報処理科共通）

- 簿記、会計などの商業ビジネスや、プログラミングや情報システムなどのコンピュータの活用に興味・関心があり、その知識と技術を深め、高度資格取得に意欲的に取り組む生徒。
- 高い倫理観と責任感を持ち、商業人としての身だしなみ、あいさつ、言葉づかいやビジネスマナーをしっかりと身につけようとする生徒。

ウ 取得できる主な資格

- IT パスポート試験
- 全商情報処理検定 1 級（ビジネス情報・プログラミング）
- 全商ビジネス文書実務検定 1 級 ・ 全商簿記実務検定（原価計算 1 級）
- 全商簿記実務検定 2 級 ・ 全商商業経済検定 2 級
- 全商珠算・電卓実務検定 2 級

H27 年の主な進学先・就職先

進学 九州産業大学（商、経済）、久留米大学（商、経済）、日本文理大学（経営経済）、麻生情報ビジネス専門学校、九州国際情報ビジネス専門学校、佐賀工業専門学校、福岡医健専門学校、柳川リハビリテーション学院、福岡医療専門学校、武雄看護学校、鹿島藤津地区医師会立看護高等専門学校

就職 山崎製パン、キューピー株式会社、A コープ佐賀、旭九州株式会社、太田医院、佐賀県農業協同組合、東亜工機、祐徳自動車、祐徳薬品工業

食品調理科

ア 学科の目標

- 即戦力になる技術と知識をもった調理師をめざします（HP より）

イ 求める生徒像（HP より）

- 「食」に興味・関心があり、調理や栄養、食品についての専門的な知識・技術を深めようとする意欲のある生徒。また、調理師免許を取得し、スペシャリストを目指す生徒。
- 「食」に対する衛生観念や責任感を持ち、「食」に携わる者としての身だしなみ、あいさつ、言葉づかいやマナーをしっかりと身につけようとする生徒。

ウ 取得できる主な資格

- 調理師免許 ・ 家庭科食物調理技術検定 1 級 ・ 技術考査

H27 年の主な進学先・就職先

進学 西九州大学（健康栄養）、西九州短大（食物栄養、幼児保育）、佐賀女子短大（健康福祉）、日本菓子専門学校、九州国際情報ビジネス専門学校、武雄看護学校

就職 株式会社孝明、ホテルニューオータニ佐賀、大正屋、トヨタ生活協同組合、志田病院、高島病院

<参考資料2> 普通科、商業科、家庭科の配置状況

鹿島・藤津地区の学科及び募集定員（640人 16学級規模）

普通科 280人（7学級規模）

（鹿島高校 200人、太良高校 80人）

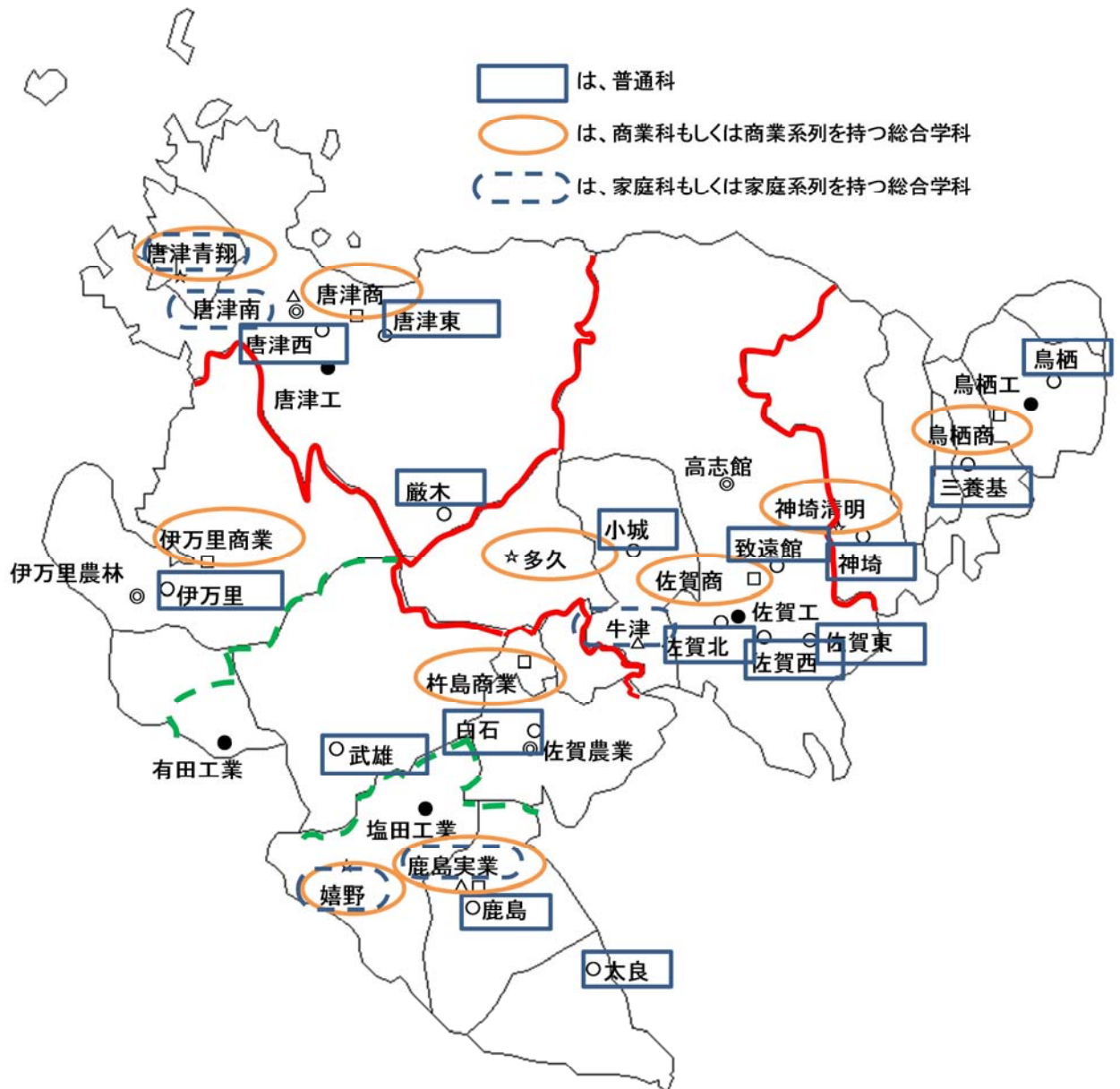
専門学科 240人（6学級規模）

（工業科：塩田工業高校 120人、商業科：鹿島実業高校 80人、家庭科：鹿島実業高校 40人）

総合学科 120人（3学級規模）

（総合学科：嬉野高校 120人）

【普通科、商業科（商業系列を含む）及び家庭科（家庭系列を含む）の全県配置】



<参考資料3> 鹿島・藤津地区の高校別志願状況

地区概況

地区	学校名	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
鹿島 藤津 地区	鹿島	1.24	1.22	1.12	1.14	1.06	1.01	0.99	1.04	1.04	1.07	1.11	1.10	1.06	1.00	0.98	1.00	0.95	0.93
	太良	0.36	0.34	0.47	0.51	0.58	0.98	0.75	0.85	1.20	0.74	0.74	1.14	0.76	0.75	0.89	0.66	0.84	1.15
	塩田工業	0.87	1.02	1.20	0.71	0.71	0.90	0.71	0.81	1.00	0.74	0.74	0.99	1.00	1.03	1.16	1.00	1.02	1.04
	鹿島実業	1.75	1.60	1.42	1.44	1.49	1.17	1.38	1.33	0.94	1.35	1.30	0.92	1.29	1.22	1.11	1.13	1.03	0.81
	嬉野	0.73	0.84	1.05	1.00	1.09	1.20	1.20	1.13	1.25	1.01	1.08	1.23	0.97	0.86	0.90	0.76	0.78	0.90
西部学区計		1.07	1.07	1.10	1.03	1.03	1.07	1.08	1.08	1.09	1.07	1.08	1.13	1.07	1.06	1.05	1.02	1.01	1.05

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

鹿島高校及び鹿島実業高校志願状況(学科別)

学校名	学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
鹿島	普通科	1.24	1.22	1.12	1.14	1.06	1.01	0.99	1.04	1.04	1.07	1.11	1.10	1.06	1.00	0.98	1.00	0.95	0.93
鹿島実業		1.75	1.60	1.42	1.44	1.49	1.17	1.38	1.33	0.94	1.35	1.30	0.92	1.29	1.22	1.11	1.13	1.03	0.81
	商業科	1.64	1.50	1.47	1.59	1.53	1.17	1.61	1.44	0.91	1.26	1.26	0.88	1.30	1.23	1.09	0.98	0.98	0.76
	情報処理科																		
	食品調理科	1.98	1.80	1.32	1.15	1.43	1.17	0.90	1.13	1.00	1.53	1.38	1.00	1.28	1.20	1.14	1.43	1.13	0.93

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

学科別志願倍率平均(平成24年度入学生~平成27年度入学生)

高校	学科	一般選抜 平均倍率	予備調査を含めた 全平均倍率
鹿島	普通科	1.01	1.02
鹿島実業	商業科	0.91	1.14
	情報処理科		
	食品調理科	1.02	1.17

【参考1 県全体の学科別志願状況】

後期・一般	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
普通科	1.11	1.14	1.14	1.19	1.12	1.15
専門学科	1.23	1.21	1.16	1.22	1.21	1.14
農業科	1.22	1.37	1.31	1.31	1.29	1.26
工業科	1.19	1.16	1.17	1.17	1.22	1.17
商業科	1.25	1.22	1.10	1.22	1.16	1.05
家庭科	1.37	1.11	1.11	1.24	1.27	1.13
総合学科	1.20	1.19	1.11	1.14	0.98	1.21
県立全体	1.16	1.17	1.15	1.20	1.15	1.15

理数科及び芸術科は普通科に含む。

【参考2 商業科の小学科別志願状況】

大学科	小学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
商業		1.28	1.24	1.25	1.25	1.25	1.22	1.24	1.20	1.10	1.16	1.19	1.22	1.20	1.14	1.16	1.11	1.10	1.05
<<<募集 は商業系 に含む	商業系	1.36	1.27	1.24	1.27	1.30	1.27	1.24	1.23	1.10	1.18	1.20	1.21	1.29	1.19	1.18	1.13	1.14	1.09
	情報系	1.02	1.14	1.20	1.20	1.09	1.07	1.21	1.13	1.09	1.06	1.13	1.25	0.90	0.81	1.08	1.04	0.95	0.93
	その他	1.20	1.30	1.68															

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

<参考資料4> 鹿島・藤津地区の中学生の進路状況

鹿島・藤津地区の中学生の進路状況を分析すると、約8割が県内公立高校に進学しており、普通科及び専門学科への進学者数の割合は<普通科:37% 専門学科:48%>である(過去5年平均値)。地域としては約7割の生徒が、地元である旧西部学区へ進学している。

【上段:人数】

【下段:卒業者に対する割合(%)】

鹿島・藤津地区 中卒者進路	全日制			定時制 ・ 通信制	高専 ・ 特別支援	就職等 左記 以外	卒業 者数
	県内 公立	県内 私立	県外 公立				
平成23年 3月卒	615	56	15	4	13	15	718
	85.7	7.8	2.1	0.6	1.8	2.1	
平成24年 3月卒	620	73	17	6	11	12	739
	83.9	9.9	2.3	0.8	1.5	1.6	
平成25年 3月卒	638	76	10	10	7	23	764
	83.5	9.9	1.3	1.3	0.9	3.0	
平成26年 3月卒	604	60	22	3	9	17	715
	84.5	8.4	3.1	0.4	1.3	2.4	
平成27年 3月卒	586	51	19	3	7	17	683
	85.8	7.5	2.8	0.4	1.0	2.5	
5年集計	3,063	316	83	26	47	84	3,619
	84.6	8.7	2.3	0.7	1.3	2.3	

鹿島高校及び鹿島実業高校への通学状況
ほとんどが、地元からの入学者である。

単位: %

	旧東部	旧中部	旧北部	旧西部	県外等	
					うち鹿島市	
鹿島高校	0.0	0.9	0.0	98.6	40.3	0.5
鹿島実業高校	0.7	2.2	0.2	96.6	41.8	0.3

注)平成23年～平成27年度の高校1年在籍者の出身中学校を基に、
旧学区ごとの割合を示す。(各年度5月1日現在)

<参考資料5> 鹿島高校と鹿島実業高校の高校卒業後の進路状況

普通科（鹿島高校）

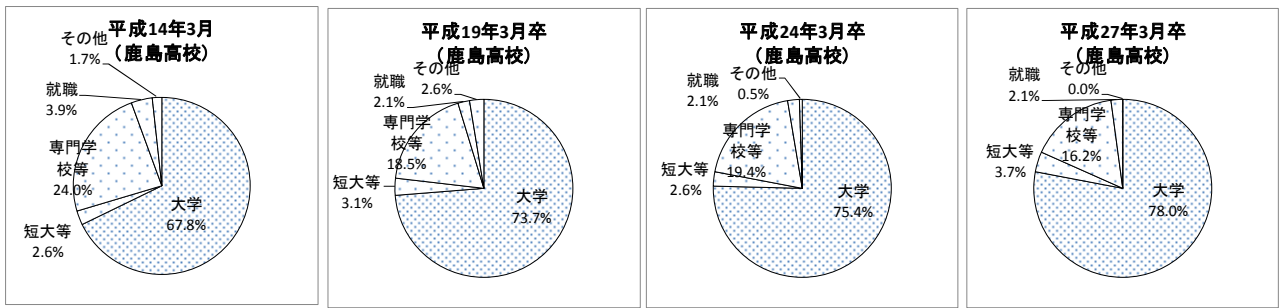
ア 概況

- ・ 大学進学者の割合は、卒業生の約8割近くになる。
- ・ 割合としては低いが、就職者もあり、公務員が多い。

イ 進路状況

卒業年月	学科	卒業生数	進学者							就職者	自営者	その他
			大学			短期大学			各種・専修学校			
			国立	公立	私立	国立	公立	私立				
平成24年3月	普通科	191	65	9	70	0	1	4	38	4	0	0
平成25年3月	普通科	195	72	22	60	0	2	4	31	3	0	1
平成26年3月	普通科	198	61	18	81	0	1	4	28	4	0	1
平成27年3月	普通科	191	75	19	55	0	2	5	31	4	0	0

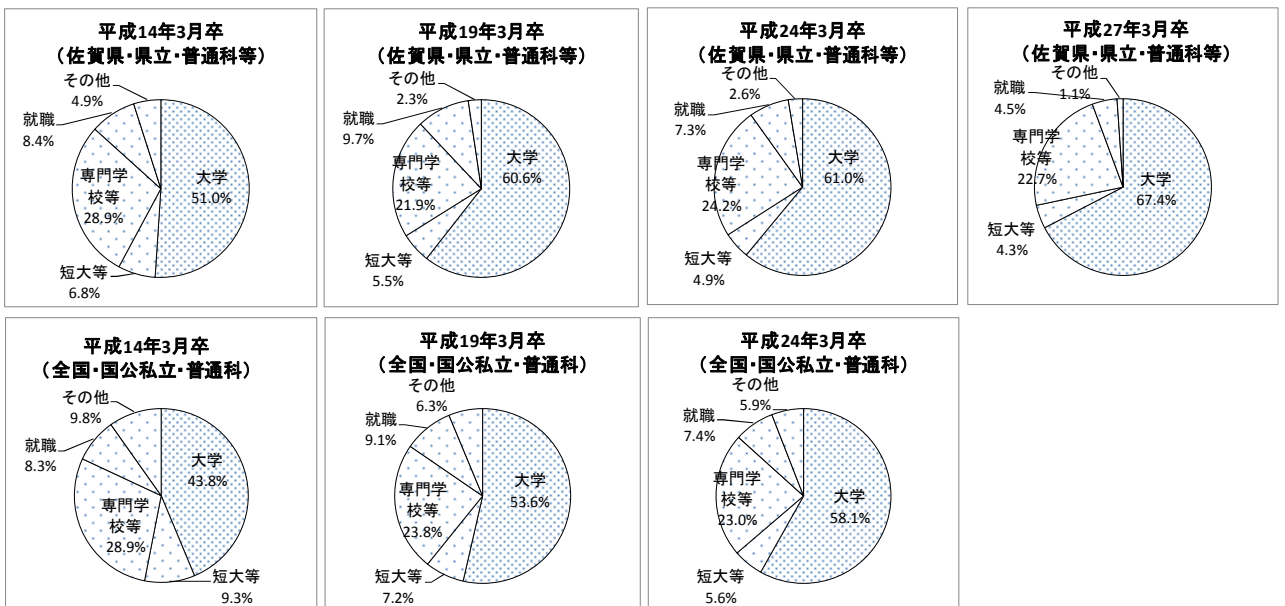
【鹿島高校卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の普通科卒業後の進路状況】

上段：佐賀県・県立・普通科等

下段：全国・国公立・普通科



商業科（鹿島実業高校）

ア 概況 進学者の割合が増加傾向である。これは、商業科の全国的な状況でもある。

イ 進路状況

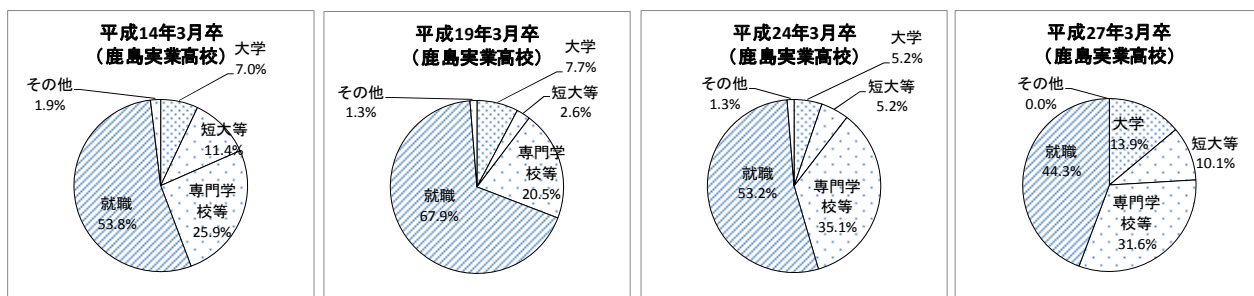
【商業科】

卒業年月	学科	卒業生数	進学者			就職者	自営者	その他
			大学	短大	専門等			
平成24年3月	商業科	39	3	3	18	15	0	0
平成25年3月	商業科	40	3	2	14	20	0	1
平成26年3月	商業科	39	1	2	14	20	1	1
平成27年3月	商業科	40	4	8	10	18	0	0

【情報処理科】

卒業年月	学科	卒業生数	進学者			就職者	自営者	その他
			大学	短大	専門等			
平成24年3月	情報処理科	38	1	1	10	26	0	0
平成25年3月	情報処理科	38	2	2	16	18	0	0
平成26年3月	情報処理科	38	4	2	14	18	0	0
平成27年3月	情報処理科	39	7	0	15	15	2	0

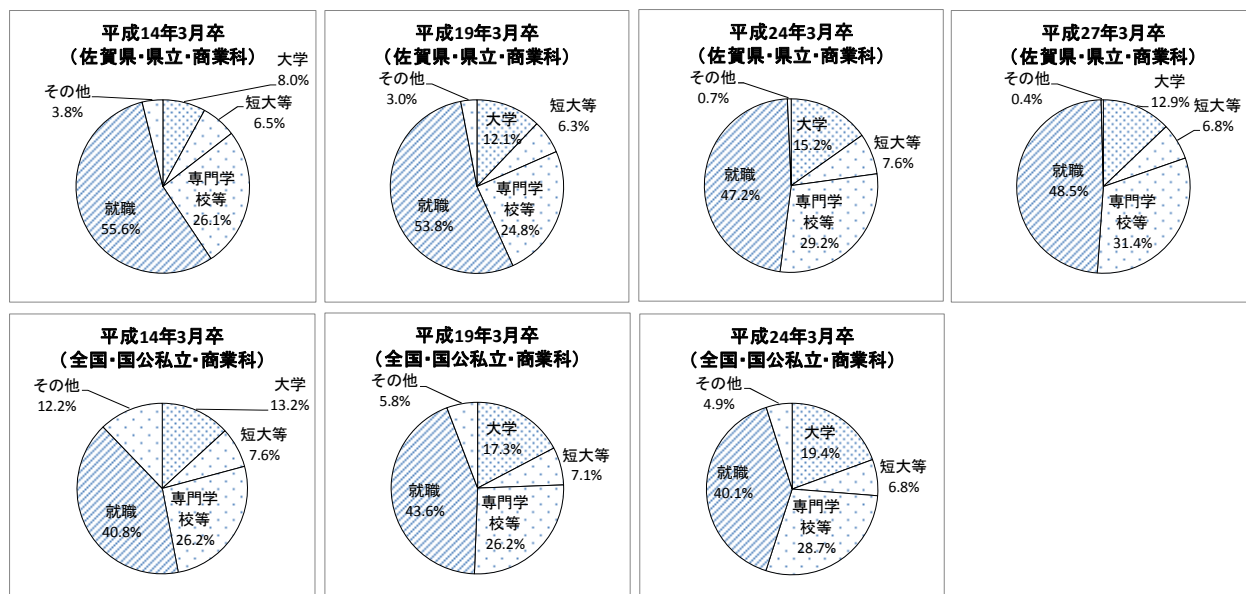
【鹿島実業高校商業科及び情報処理科卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の商業科卒業後の進路状況】

上段：佐賀県・県立・商業科

下段：全国・国公私立・商業科



ウ 産業別進学状況

【商業科】

卒業年月	学科	進学					
		経済・ビジネス系	情報系	調理・栄養系	健康医療看護系	教育	その他
平成24年3月	商業科	4			12	3	4
平成25年3月	商業科	5			6	2	6
平成26年3月	商業科	6	4		3	2	3
平成27年3月	商業科	3	2		5	6	6
商業科 4年合計		18	6	0	26	13	19

【情報処理科】

卒業年月	学科	進学					
		経済・ビジネス系	情報系	調理・栄養系	健康医療看護系	教育	その他
平成24年3月	情報処理科	2			6	1	1
平成25年3月	情報処理科	3	1	1	11	2	2
平成26年3月	情報処理科	6	2		9	1	2
平成27年3月	情報処理科	9	3		6		3
情報処理科 4年合計		20	6	1	32	4	8

エ 産業別就職状況

【商業科】

卒業年月	学科	就職					
		卸売小売	製造	医療福祉	サービス	公務	その他
平成24年3月	商業科	2	6	2	3		3
平成25年3月	商業科	6	8	1	5		1
平成26年3月	商業科	7	7	1	4	1	1
平成27年3月	商業科	2	8	2	4		3
商業科 4年合計		17	29	6	16	1	8

【情報処理科】

卒業年月	学科	就職					
		卸売小売	製造	医療福祉	サービス	公務	その他
平成24年3月	情報処理科	3	7	5	5	1	7
平成25年3月	情報処理科	3	8	4	1		6
平成26年3月	情報処理科	2	7	2	2	1	6
平成27年3月	情報処理科	4	7	5	2	1	2
情報処理科 4年合計		12	29	16	10	3	21

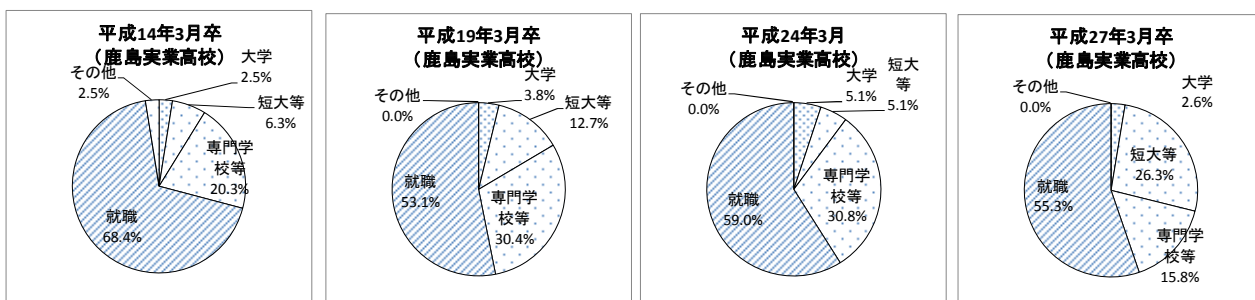
家庭科（鹿島実業高校）

ア 概況 就職が多く、近年は短大進学者が増加。専門学校進学者は減少している。

イ 進路状況

卒業年月	学科	卒業生数	進学者			就職者	自営者	その他
			大学	短大	専門等			
平成24年3月	食品調理科	39	2	2	12	23	0	0
平成25年3月	食品調理科	38	3	8	8	18	0	1
平成26年3月	食品調理科	40	3	6	7	24	0	0
平成27年3月	食品調理科	38	1	10	6	21	0	0

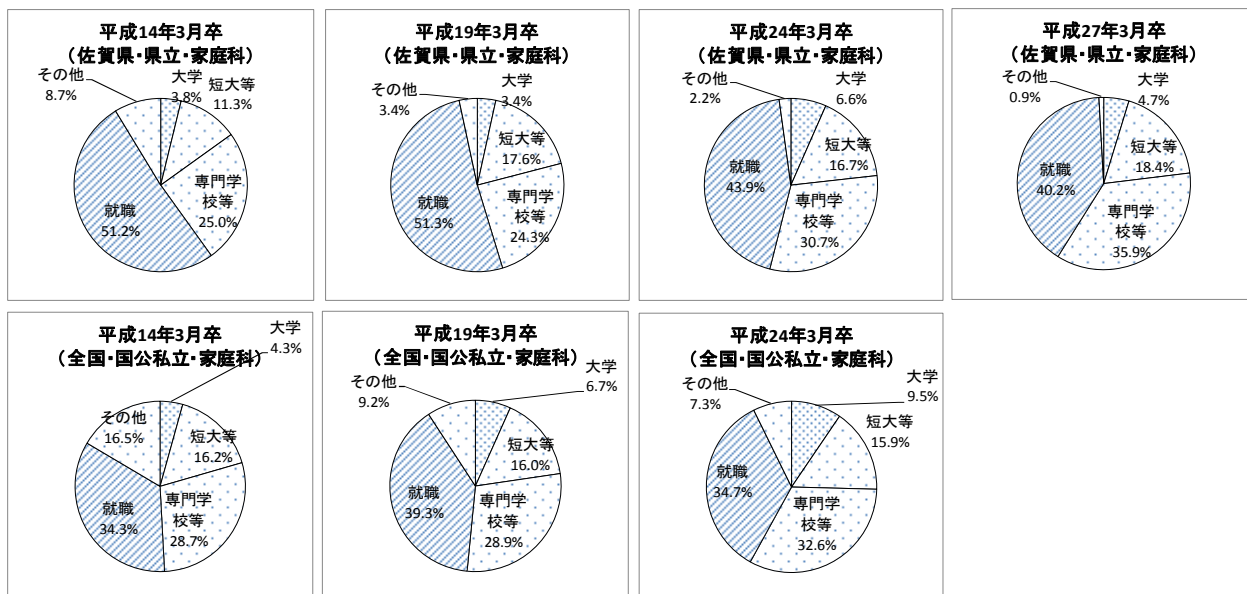
【鹿島実業高校食品調理科卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の家家庭科卒業後の進路状況】

上段：佐賀県・県立・家庭科

下段：全国・国公立・家庭科



ウ 産業別進学状況

【食品調理科】

卒業年月	学科	進学					
		経済・ビジネス系	情報系	調理・栄養系	健康医療看護系	教育	その他
平成24年3月	食品調理科			9	5		2
平成25年3月	食品調理科	2	1	7	4	3	1
平成26年3月	食品調理科			5	6	3	2
平成27年3月	食品調理科	1		8	4	3	1
食品調理科 4年合計		3	1	29	19	9	6

エ 産業別就職状況

【食品調理科】

卒業年月	学科	就職					
		卸売小売	製造	医療福祉	サービス	公務	その他
平成24年3月	食品調理科	4	3	7	10	1	
平成25年3月	食品調理科	3	1	5	11		
平成26年3月	食品調理科	3	1	8	14		
平成27年3月	食品調理科	6		9	8	1	
食品調理科 4年合計		16	5	29	43	2	0

<参考資料6> 県内食品調理科の倍率推移（過去5年）

【9月予備調査（県立高校入学希望状況調査 第1回）】

中卒年月		平成23年3月卒			平成24年3月卒			平成25年3月卒			平成26年3月卒			平成27年3月卒		
学校名	学科名	募集 定員	9月 志願者	9月 倍率	募集 定員	9月 志願者	9月 倍率	募集 定員	9月 志願者	9月 倍率	募集 定員	9月 志願者	9月 倍率	募集 定員	9月 志願者	9月 倍率
牛津	食品調理科	40	102	2.55	40	94	2.35	40	100	2.50	40	93	2.33	40	88	2.20
鹿島実業	食品調理科	40	46	1.15	40	36	0.90	40	61	1.53	40	51	1.28	40	57	1.43
県合計（食品調理科）		80	148	1.85	80	130	1.63	80	161	2.01	80	144	1.80	80	145	1.81

牛津高校は平成24年3月中卒生までは「食品調理科調理師コース」。平成25年3月中卒生からは「食品調理科」

【11月予備調査（県立高校入学希望状況調査 第2回）】

中卒年月		平成23年3月卒			平成24年3月卒			平成25年3月卒			平成26年3月卒			平成27年3月卒		
学校名	学科名	募集 定員	11月 志願者	11月 倍率	募集 定員	11月 志願者	11月 倍率	募集 定員	11月 志願者	11月 倍率	募集 定員	11月 志願者	11月 倍率	募集 定員	11月 志願者	11月 倍率
牛津	食品調理科	40	67	1.68	40	76	1.90	40	80	2.00	40	85	2.13	40	70	1.75
鹿島実業	食品調理科	40	57	1.43	40	45	1.13	40	55	1.38	40	48	1.20	40	45	1.13
県合計（食品調理科）		80	124	1.55	80	121	1.51	80	135	1.69	80	133	1.66	80	115	1.44

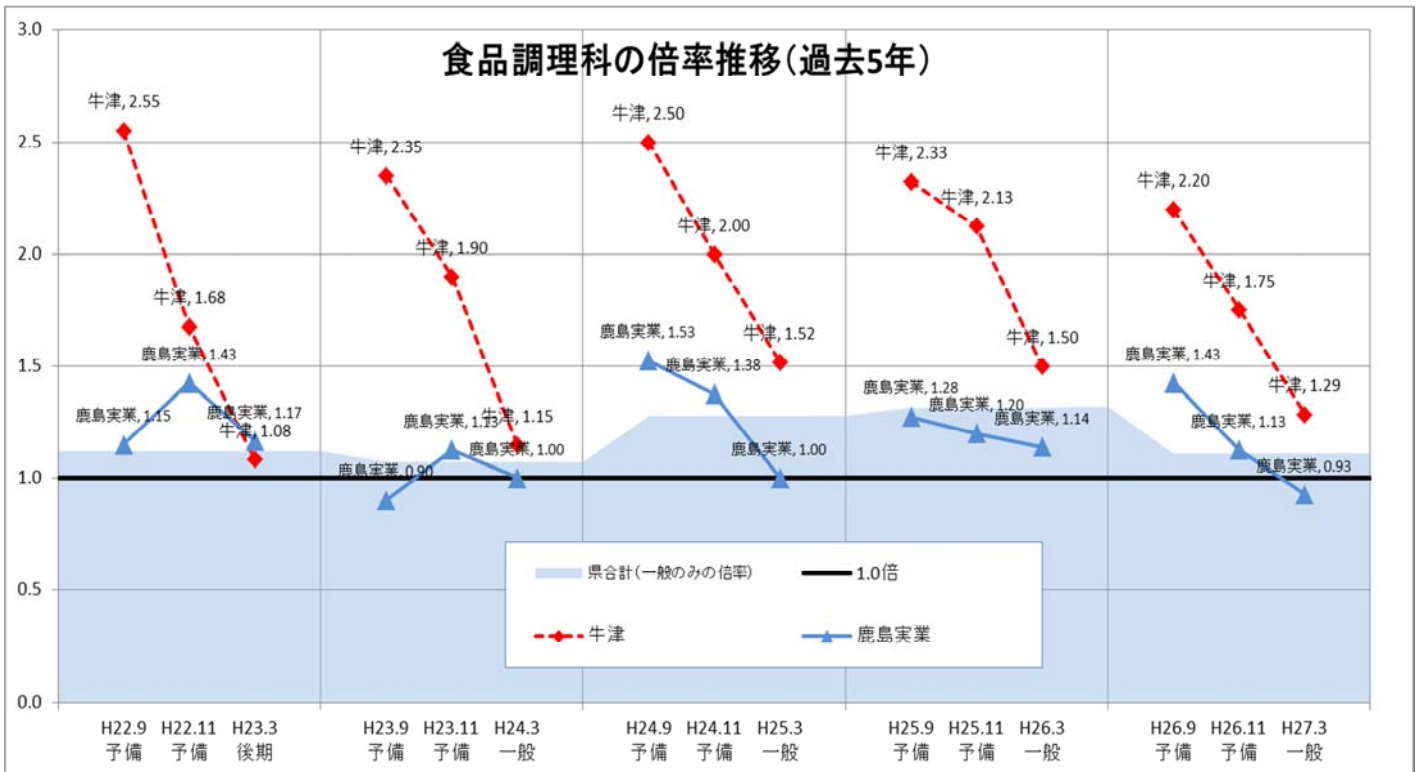
牛津高校は平成24年3月中卒生までは「食品調理科調理師コース」。平成25年3月中卒生からは「食品調理科」

【後期・一般】

中卒年月		平成23年3月卒				平成24年3月卒				平成25年3月卒			
学校名	学科名	募集 定員	後期 定員	入試 志願者	後期 倍率	募集 定員	一般 定員	入試 志願者	一般 倍率	募集 定員	一般 定員	入試 志願者	一般 倍率
牛津	食品調理科	40	24	26	1.08	40	27	31	1.15	40	29	44	1.52
鹿島実業	食品調理科	40	18	21	1.17	40	29	29	1.00	40	25	25	1.00
県合計（食品調理科）		80	42	47	1.12	80	56	60	1.07	80	54	69	1.28

中卒年月		平成26年3月卒				平成27年3月卒			
学校名	学科名	募集 定員	一般 定員	入試 志願者	一般 倍率	募集 定員	一般 定員	入試 志願者	一般 倍率
牛津	食品調理科	40	28	42	1.50	40	28	36	1.29
鹿島実業	食品調理科	40	29	33	1.14	40	27	25	0.93
県合計（食品調理科）		80	57	75	1.32	80	55	61	1.11

牛津高校は平成24年3月中卒生までは「食品調理科調理師コース」。平成25年3月中卒生からは「食品調理科」



牛津高校は平成24年3月中卒生までは「食品調理科調理師コース」。平成25年3月中卒生からは「食品調理科」である。

<参考資料7> 食品調理科の進路状況

7-1 県内食品調理科の食品調理系への主な進路先（進学・就職）過去2年分

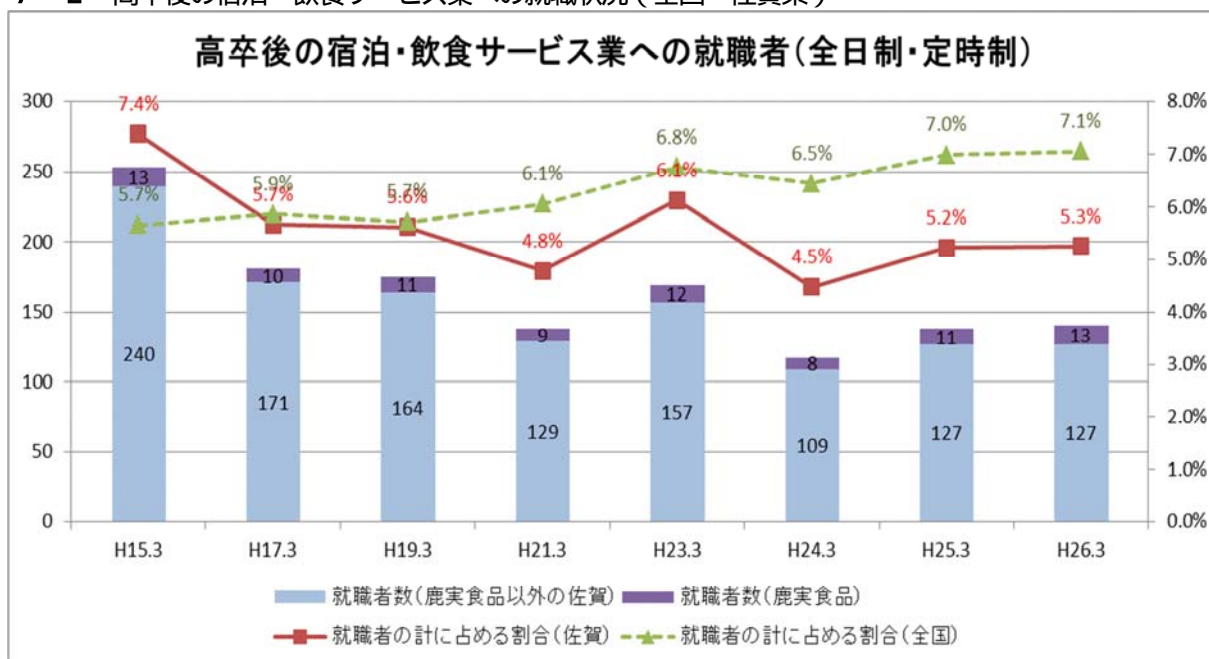
鹿島実業高校 食品調理科

進路区分		進路先
就職	宿泊・飲食サービス（レストラン、料亭等）	レストラン中村孝明、串八、美々卯、タニミズ企画、ドライブイン館、大正屋、ホテルニューオータニ佐賀、東京エアポートレストラン、JR東海ホテルズ、京都吉兆、兵衛旅館、新湯ホテル、魚国総本社、トヨタ生活協同組合
	集団給食等（福祉施設、保育園等）	余暇センターきたじま、志田病院、斉昭園、整肢会、高島病院、園田病院
進学	大学・短大	西九州大学健康栄養学部、西九州大学短期大学部食物栄養学科、佐賀女子短期大学健康福祉学科
	専門学校等	日本菓子専門学校

牛津高校 食品調理科（調理師コース）

進路区分		進路先
就職	宿泊・飲食サービス（レストラン、料亭等）	シャトー文雅、野々香、ホテルニューオータニ佐賀、マリトピア、ONE SPOON、フランス料理 KOJIMA、レストランよねむら、和久傳、シェ・イノ、ロイヤルホスト、中国名菜 孫、古湯温泉おんくり、くらおか亭、大正屋、ハウステンボス、ホテルオークラ福岡、ラ・ロシェル山王、魚国総本社、トヨタ生活協同組合
	集団給食等（福祉施設、保育園等）	アイケアレジデンス佐賀、エバーグリーン、尚賢保育園、晴寿園、シルバーケア三瀬、若楠療育園、ナリコマフード、佐賀新聞ライフマネジメント、きやま・やよいがおか鹿毛病院、天寿荘、富士学園
進学	大学・短大	西九州大学健康栄養学部、長崎国際大学健康管理学部、西九州大学短期大学部食物栄養学科
	専門学校等	中村調理製菓専門学校、エコール辻 大阪、辻製菓専門学校

7-2 高卒後の宿泊・飲食サービス業への就職状況（全国・佐賀県）

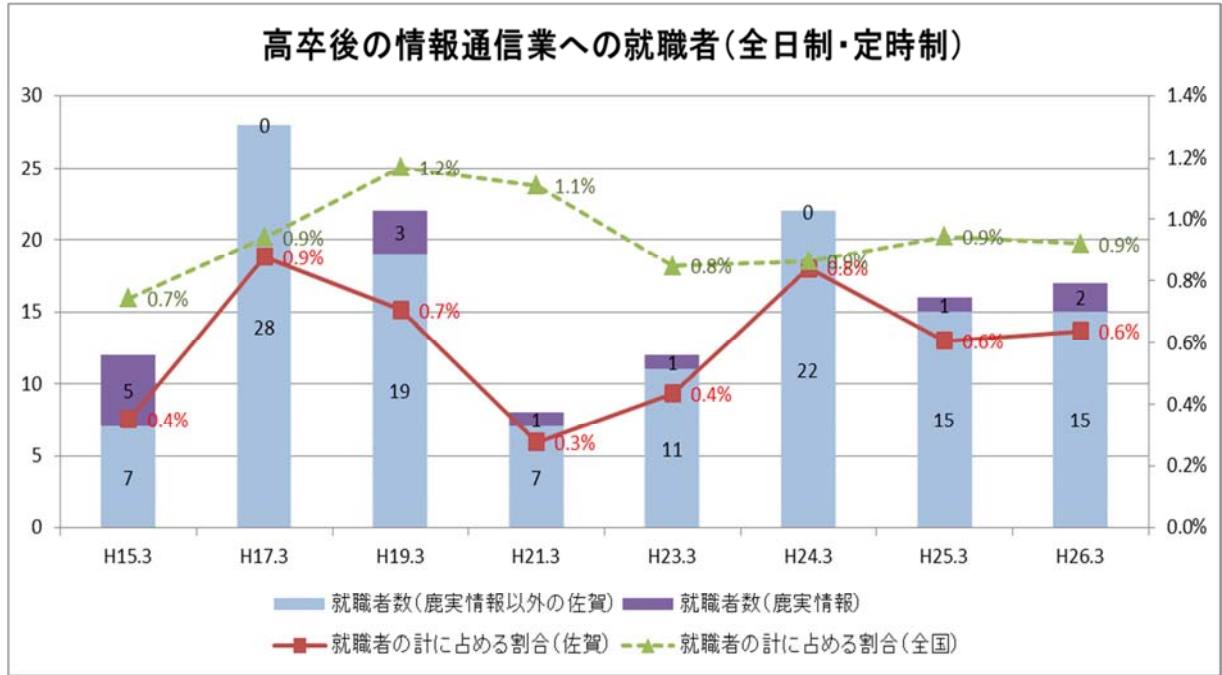


文科省 学校基本調査を基に作成

日本標準産業分類（総務省）による分類

「宿泊・飲食サービス業」… 宿泊業、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業

<参考資料8> 高卒後の情報通信業への就職状況（全国・佐賀県）



文科省 学校基本調査を基に作成

日本標準産業分類（総務省）による分類

「情報通信業」
 通信業、放送業、情報サービス業、インターネット附随サービス業
 映像・音声・文字情報制作業

【参考2 商業科の小学科別志願状況】(再掲)

大学科	小学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
商業		1.28	1.24	1.25	1.25	1.25	1.22	1.24	1.20	1.10	1.16	1.19	1.22	1.20	1.14	1.16	1.11	1.10	1.05
	商業系	1.36	1.27	1.24	1.27	1.30	1.27	1.24	1.23	1.10	1.18	1.20	1.21	1.29	1.19	1.18	1.13	1.14	1.09
	情報系	1.02	1.14	1.20	1.20	1.09	1.07	1.21	1.13	1.09	1.06	1.13	1.25	0.90	0.81	1.08	1.04	0.95	0.93
	その他	1.20	1.30	1.68															

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

校舎制について

1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）より

鹿島地区の新高校の場所については「当面、校舎制」としている。

2 鹿島地区校舎データ

(1) 現鹿島高校校舎（普通教室数は現在行われている改築工事完了後の数）

普通教室 15室（5教室×3学年）

体育館

講堂

プール

柔剣道場

弓道場

(2) 現鹿島実業高校校舎

普通教室 18室（うち3室は食品調理科用教室）

体育館

柔剣道場

弓道場

(3) 校舎間距離

鹿島高校正門（赤門）～鹿島実業高校正門

280m（徒歩4分）



鹿島高校正門（赤門）～鹿島実業高校裏門

160m（徒歩2分）



3 検討事項

(1) 生徒の配置・移動（授業・部活動・行事等）

生徒の教室配置について（普通科4学級、専門学科2学級の場合）

【例1】学科別の配置（普通科 鹿島高校 専門学科 鹿島実業高校）

【例2】学年別の配置（例） 1年生 鹿島実業高校 家庭科以外の2,3年生 鹿島高校
家庭科の2,3年生 鹿島実業高校

生徒の移動について

ア 基本方針

- ・ 両校舎の距離が極めて近いため、バス等の移動手段については考慮しない。
- ・ 授業については生徒の校舎間移動は原則行わず、授業担当教員が移動する。

イ 学校行事等における移動

- ・ 合同行事等の際は、生徒の移動時間を考慮したスケジュールを設定する。
- ・ 屋内の合同行事は体育館で行うものが最も多いと想定される。

ウ その他考慮すべきこと

- ・ 下足箱の増設（行事の際に校舎移動を行う生徒用 体育館に設置？）
- ・ 雨天時の移動（行事）（傘の準備をしておかなかった生徒用に、移動用の貸出傘を準備する）

(2) 職員の配置・移動（授業・部活動・行事等）

職員の配置について

ア 基本方針

- ・ 授業の担当クラスや時間割、学年を考慮して職員配置を行う。

イ 校長の配置について

【例1】曜日を分けて、それぞれの校舎に常駐（例：月水 鹿島校舎、火木金 鹿実校舎 等）

【例2】どちらかに校舎を決めて常駐（その場合は、校長不在の校舎に副校長を配置）

ウ 校務分掌

分掌主任の配置

【例1】両校舎に全ての分掌主任を配置（学年主任を除く）

【例2】両校舎に分掌主任と副主任を分散して配置

教務主任 鹿島校舎、教務副主任 鹿実校舎
生徒指導主任 鹿実校舎、生徒指導副主任 鹿島校舎
1年学年主任 鹿実校舎、1年学年副主任 鹿島校舎

【例3】分掌主任はどちらかの校舎に固めて配置する

見直しが必要となる校務分掌

- ・ 進路指導部

【例1】分掌内で進学担当と就職担当を分ける（主任 進学担当、副主任 就職担当など）

【例2】進学指導部と就職指導部をそれぞれ別に設ける

- ・ 普通科主任の新設

職員の移動について

ア 基本方針

- ・ 両校舎の距離が極めて近いため、原則自家用車・公用車での移動は行わない。
- ・ 授業については生徒の校舎間移動は原則行わず、授業担当教員が移動する。

イ 授業における移動

- ・ 極力校舎間移動をしないような時間割を設定する。
- ・ 移動が必要な授業は、特定の曜日や時間帯（午前・午後）に固める。

各種会議及び委員会等の開催形態（職員会議、学年会、教科会、各種委員会等）

【例1】両方の校舎で交互に実施

【例2】会場校舎を決めておき、常に同じ校舎で実施

【例3】校舎ごと別々に実施

【例4】基本的には校舎ごと別々に実施。ただし年に数回、議題やテーマによって合同実施（学期末、学校祭に関する会議、卒業・進級認定に関する会議等）

【例5】会議場所はそれぞれの校舎だが、テレビ会議システムを利用する（Skype、Ustream、jabber、ハンゲアウト等）

両校舎間の連絡手段の整備

- ・ 両校舎間での内線（インターホン）の整備
- ・ 両校舎をカバーする放送設備の整備（鹿島校舎から鹿実校舎に放送を入れる等）
- ・ テレビ会議・中継システム（天候の状況により全校集会を各教室の電子黒板を利用して行う等）
- ・ 文書の受付、回議、回覧体制の構築

(3) 校時

【例1】両校舎（全学科）で終業時間を統一

50分×7限授業（7限目の専門学科は資格取得のための講座等）

【例2】学科ごとに終業時間を別に設定

普通科 50分×7限

専門学科 50分×6限（6限終了後は部活動）

(4) 部活動

- ・ 再編後の部活動の設置について検討する（統合・新設等）
- ・ 部活動ごとに活動場所を設定する。
- ・ 生徒の部活動の移動は各自で行う。

(5) 合同行事として考えられるもの

入学式（体育館）	卒業式（体育館）	始業式・終業式（体育館）
芸術鑑賞会（体育館・市民会館等）		体育祭（グラウンド）
文化祭（体育館・各校舎・各教室）		高校総体壮行会（体育館）
全校集会（体育館）	修学旅行	開校記念行事（体育館）
学年集会（体育館・武道場・講堂）		新入生合宿
牡丹餅会（体育館）	104年前より実施中	

行事ごとに隔年または交互に実施することも考えられる。

例：入学式 鹿島校舎 卒業式 鹿実校舎（次の年度はその逆）など

課題

普通科と専門学科の各種行事の開催時期の摺合せが必要。

例）学校祭（体育祭・文化祭）の実施時期をどうするか？（5月、9月、10月？）

4 校舎制の他県事例

1 塩釜高等学校（宮城県）

1 沿革

H22 宮城県塩釜女子高等学校（普通科）と（旧）塩釜高等学校（普通科、商業科）が統合。共学制の宮城県塩釜高等学校として開校。

2 学科と募集定員・一般入試の志願倍率

校舎	学科	H27 募集定員（人）	志願倍率（H27）	H26.9 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
東キャンパス （1、2年生）	普通科	320	1.51	320	318	
	ビジネス科	80	1.30	79	79	
西キャンパス （3年生）	普通科					311
	ビジネス科					78

（H27 宮城県全体の倍率 全日制 1.22 後期選抜）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 500m】 裏門・通用口等を利用した場合は 100m 程度

（参考資料1参照）

(1) 西キャンパス（旧塩釜高校校舎）

住所 宮城県塩竈市泉ヶ岡10番1号

設置学科

- ・ 普通科、ビジネス科

特色・位置づけ

- ・ 塩釜高校の本校舎としての位置づけ
- ・ 3年生が通学

(2) 東キャンパス（旧塩釜女子高校校舎）

住所 宮城県塩竈市泉ヶ岡7番1号

設置学科

- ・ 普通科、ビジネス科

特色・位置づけ

- ・ 1、2年生が通学

4 卒業後の状況（平成25年度）

課程	大学		短大		大学校	専門学校	就職
	国公立	私立	国公立	私立			
普通科	7	91	0	24	0	92	85
ビジネス科	1	9	0	3	1	4	50
計	8	100	0	27	1	96	135

(1) 主な合格先

- ・ 国公 宮城教大(1)、宮城大(2)、福島大(3)、山形大(2)
- ・ 私大・その他 東北学院大、宮城学院女子大、仙台大等

(2) 主な就職先

- ・ 仙台市役所、七十七銀行、アイリスオーヤマ、仙台三越等

5 部活動 体育系 24 文化系 20 計 44

6 職員数 2学科、10学級、400人/学年 - 教員数 76人

2 ^{いばら}井原高等学校（岡山県）

1 沿革

H18.4 岡山県立井原高等学校（普通科）と岡山県立精研高等学校（家政科、園芸科学科）が統合

2 学科と募集定員・一般選抜の志願倍率

校舎	学科	H27 募集 定員（人）	志願倍率 （H27）	H26 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
北校地	普通科	120	1.04	110	115	114
南校地	園芸科	40	0.55	40	34	37
	家政科	40	1.00	39	38	40

（H27 岡山県全体の倍率 全日制 1.14）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 700m】 （ 参考資料 1 参照）

- (1) 北校地（旧井原高校校舎）
住所 岡山県井原市井原町 1802
設置学科
・ 普通科（単位制）
特色・位置づけ
・ 国立大学進学を基本とした進学指導

- (2) 南校地（旧精研高校校舎）
住所 岡山県井原市井原町 1875
設置学科
・ 園芸科、家政科

4 卒業後の状況（平成 26 年度）

校舎	大学		短大		大学校	専門 学校	就職・その他
	国公立	私立	国公立	私立			
北校地	40	122	1	9	0	15	28
南校地	1	8	0	8	2	30	

- (1) 主な合格先
・ 国公 京都大(1)、大阪大(1)、奈良女大(1)、岡山大(8)、岡山県立大(4)、高知工科大(3)
・ 私大・その他 法政大、同志社大、立命館大、近畿大 等
- (2) 主な就職先
・ 食品、製造、運輸、福祉、病院 等

5 部活動 体育系 13 文科系 13（含 同好会） 計 26 殆どの部活が合同で活動

6 職員数 3 学科、5 学級、200 人 - 教員数 43 人
（校長、養護教諭、講師は除く）

参考資料 1

塩釜高校 東キャンパスと西キャンパスの位置関係



井原高校 北校地と南校地の位置関係



他県の校舎制の状況

※大津緑洋高校は平成26年2月、それ以外の高校は平成26年12月の調査

高校名	校舎間距離	合同行事・授業 (移動を要するもの)	生徒の移動手段等	教諭の移動状況	その他
岩ヶ崎高校(宮城県) 岩ヶ崎校舎 鷺沢校舎	6.7km	・入学式、卒業式、文化祭、球技大会、部活動	・各自で移動 ・バイク通学者が多いので、バイクあるいは路線バス(中高生は市内100円)を利用	・2校兼務は公民、物理、家庭、体育(各1人)の4人 ・週2日(曜日固定) ・通勤手当が支給	管理職は 岩ヶ崎校舎:校長、教頭1人 鷺沢校舎:副校長1人
飛騨高山高校(岐阜県) 岡本校舎 山田校舎	2.1km	・入学式、卒業式、統一生徒会、学習成果発表会、総合選択制授業(週2日)、部活動	・各自で移動 ・卒業式のみ貸し切りバスを利用(PTA費) ・校外で実施する行事は現地集合	・2校兼務は音楽、書道(各1人)の2人のみ ・週2日(曜日固定)	管理職は 岡本校舎:校長、教頭2人 山田校舎:副校長1人、教頭1人
和歌山北高校(和歌山県) 北校舎 西校舎	7.2km	・新入生歓迎会、観劇会、体育祭(校外の施設で実施) ・体育系授業(週2回)、部活動	・部活動、授業はバスを利用(朝夕各4台、昼1台) ・路線バスを契約、経費は年間約2,000万円(県費)	・2校兼務は非常勤講師のみ ・部活動指導のための移動は出張扱い	管理職は 北校舎:校長、教頭1人 西校舎:教頭2人
海南高校(和歌山県) 海南校舎 大成校舎 (併せて分校2、定時制1)	8.1km	・部活動以外は、年に1～2回の生徒会交流のみ	・各自で移動	・2校兼務はなし	・管理職は 海南校舎:校長、教頭1人 大成校舎:教頭1人 ・将来的に大成校舎が募集停止となる可能性が高い
串本古座高校(和歌山県) 串本校舎 古座校舎	9.2km	・部活動以外は、芸術鑑賞会のみ	・シャトルバス(20数名乗り)を毎日3往復運航 ・経費は年間約640万円(県費 来年度から経費増の予定)	・2校兼務は芸術(2人)家庭(1人)の3人 ・曜日固定 ・出張扱い	管理職は 串本高校:校長、教頭1人 古座高校:教頭1人 (教頭は「校舎長」として代決可)
京都八幡高校(京都府) 北キャンパス 南キャンパス	2.9km	・入学式、卒業式、体育祭、文化祭、マラソン大会、部活動	・各自で移動	・2校兼務はなし	管理職は 北キャンパス:校長、副校長2人、教頭1人 南キャンパス:副校長1人、教頭1人
井原高校(岡山県) 北校地 南校地	0.7km	入学式、卒業式、体育祭、始業式、終業式、講演会、部活動	・各自で移動(徒歩)	・2校兼務は国語、音楽(各1人)の2人のみ ・曜日固定なし	・管理職は 北校地:校長、副校長1人 南校地:副校長1人 ・校長は北校地3日、南校地2日
真庭高校(岡山県) 落合校地 久世校地	6.4km	・部活動以外は入学式、卒業式のみであったが、今年度から農業体験、来年度から看護体験を実施	・入学式、卒業式は大型バスを利用 ・部活動の移動は、週2日スクールバスを運行(それ以外の日は各校地で活動) ・経費は年間72万(県費)	・2校兼務は理科、芸術 ・曜日固定 ・出張扱い	・管理職は 落合校地:校長、副校長1人、教頭1人 久世校地:副校長1人 ・校長は落合校地3日、久世校地2日、副校長は校長不在時の代決可
阿蘇中央高校(熊本県) 阿蘇キャンパス 阿蘇清峰キャンパス	3.1km	・入学式、卒業式、始業式、終業式、体育祭、文化祭、クラスマッチ、農業体験、必要に応じて学年集会、総合選択制授業、部活動	・部活動は各自で移動 ・行事・授業(2・3年生各週1日)の移動は貸し切りバスを利用 ・経費は約700万円(県費 来年度からは経費大幅増の予定)	・2校兼務は地歴・公民、体育、芸術(各1人)の3人 ・曜日固定 ・手当は特になし	・管理職は 阿蘇キャンパス:校長、教頭1人 阿蘇清峰キャンパス:教頭1人
大津緑洋高校(山口県) 大津キャンパス 日置キャンパス 水産キャンパス	大津ー日置 9.4km 大津ー水産 1.6km 日置ー水産 10.2km	・学習成果発表会、農業体験、航海体験、野球部1回戦全校応援、部活動	・部活動の移動はバス2台を運行 ・経費は年間約4,000万円(県費)	・兼務はなし ・部活動、行事での移動は出張扱い	・管理職は 大津キャンパス:校長、副校長1人 日置キャンパス:副校長1人 水産キャンパス:副校長1人、教頭1人 ・校長は大津キャンパス3日、日置キャンパス、水産キャンパス各1日 ・副校長(校長格)が一部決裁可

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
 - 二 新高校の施設・設備に関すること
 - 三 新高校への円滑な移行に関すること
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

(組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

(補足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

資料6 鹿島地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考			
1	鹿島高等学校 校長	角 敬一郎	委員長・学校関係者			
2	鹿島実業高等学校 校長	渡辺 孝一	副委員長・学校関係者			
3	鹿島高等学校 教頭	今田 康光	学校関係者			
4	鹿島実業高等学校 教頭	中島 淳				
5	鹿島市教育長	江島 秀隆	鹿島市	市町関係者		
6	鹿島市総務部長	橋村 勉				
7	嬉野市教育長	杉崎 士郎	嬉野市			
8	白石町教育長	江口 武好	白石町			
9	太良町教育長	松尾 雅晴	太良町			
10	鹿島高等学校 同窓会代表	矢野 善紀	地元関係者			
11	鹿島実業高等学校 同窓会代表	小池 幸照				
12	鹿島高等学校 PTA代表	岡田 和人				
13	鹿島実業高等学校 PTA代表	藤永 一男				
14	鹿島市立西部中学校長	白仁田 茂	中学校関係者			
15	鹿島市立東部中学校長	植松 正鋼				
16	副教育長（教育情報課長）	福田 孝義	県教委関係者			
17	教育政策課長	八谷 幸浩				
18	教職員課長	福地 昌平				
19	学校教育課長	松尾 敏実				
20	保健体育室長	三上 智一				
21	教育支援課長	源五郎丸 靖				
22	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章				
23	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰				
事務局	鹿島高等学校教諭	久野 直樹			事務局	
	鹿島実業高等学校教諭	梶原 圭介				
	県立高校再編整備推進室 企画主査	椛島 秀樹				
	県立高校再編整備推進室 企画主査	高山 裕樹				

